

1学年通信『原』

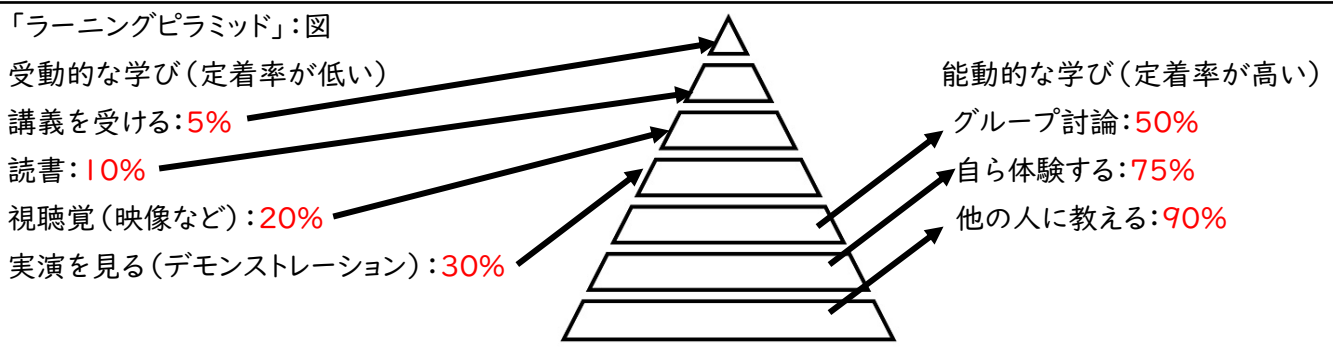
新宮町立新宮東中学校
令和8年4月20日(月)
第4号 文責:上村 一統

学習の「定着率」を意識して学びを深めよう!

新しい学年がスタートし1週間が経ちました。そして今週から本格的に授業がスタートしていきます。さて、みなさんは、日々の学習にどのような姿勢で取り組んだらいいのでしょうか?小学生の頃から「一生懸命勉強しているのに、なかなか身につかない」と悩んでいる人もいたかもしれません。実は、学習の効果を最大化するには、脳の仕組みを理解した「方法」が非常に重要です。今回の学年通信第4号からは、効率的な学びの秘訣について詳しくお伝えします。

ラーニングピラミッド:一番の学習方法は「教えること」

学習方法によって、学習の「定着率」が劇的に変わることを知っていますか?これは「ラーニングピラミッド」という図で示されており、学びのスタイルは大きく「受動的(インプット)」と「能動的(アウトプット)」の2つに分けられます。



「ラーニングピラミッド」のポイント!

ポイント①

「受動的」から「能動的」へ ピラミッドの下に行くほど定着率は上がります。特に「他の人に教える」ことは90%という圧倒的な定着率を誇り、最強の学習方法と言えます。問題を友達と出し合ったり、自分が理解した内容を誰かに説明したりする工夫が、深い学びにつながります。

ポイント②

現代の教育では、ICT 機器を「文房具」のように活用することで、ピラミッドの中段にある「視聴覚」や「デモンストレーション」を簡単に取り入れることができます。音声・映像・画像を提示したり、即座に検索したりすることで、頭の中にイメージを作りやすくなり、記憶として定着しやすくなります。

図やポイントからわかる通り、ただ授業を「受けている」だけでは、学習の定着率はわずか5%にすぎません。友達と問題を出し合ったり、自分が理解した内容を説明したりする時間は、実は自分の理解を深めるための「最強のアウトプット」なのです。最近ではICT機器を使って簡単に検索や映像視聴ができるようになりましたが、それらを「見る・聞く」だけで終わらせず、自分の言葉で「話す」段階までもっていく工夫をしてみましょう。お家に帰ってからお家の方にその日に学習した授業内容をみなさんが先生になって授業をしてみると、アウトプットが上手になるかもしれません。ぜひ試してみてください。次回の学年通信では、「復習のタイミング」について記載したいと思います。